
友人の期待に応えて書くことになった

鷲見 みずく

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

友人の期待に応えて書くことになった

【Nコード】

N51180

【作者名】

鷺見 みずく

【あらすじ】

高峰君と国世のラブラブな　しかしギャグでしかない高校生
活　立たない！　フラグが立たない！！

注意とキャラ設定

当小説　　とって良いのか良く分らない話は、中高時代に友人と作った物語のスピンオフです。物語中のキャラが書いているエロマンガを文章化せよとの指令が下されました。

まあまあ真面目にその物語を書いていたせいかこちらがとても暴走し、登場人物の設定がすごく痛々しいものと化しています。十五禁まではいかないでしょうがなんとというかキャラ　ヘンタイ　な内容になると思われます。

以下、キャラ設定

・タカミネヲボル 高峰昇

物語のヒーロー。とりあえず恰好良い。とりあえず。時々暴走してヒロインに襲いかかることを除けば紳士的な青年。

・スオウ クニヨ 周防国世

物語のヒロイン。とりあえず可愛い。可愛いったら可愛いんだよ

！！ という感じ。 高峰のことがとても好き。

クノサカ アキラ
・久野坂彰

国世をめぐる恋のさや当て用の青年。 高峰とは家が近所の従兄で顔が似ている。 高峰を差し置いて国世とのフラグが乱立する。

他、モブ多数。 現代恋愛ものでちょっとエッチ ですが基本的
にギャグです。

てんごく そのいちっ

周防国世は走っていた。何故なら今日は其須それす高校の入学式であり、興奮のあまり昨晩なかなか寝付けなかつたため寝坊してしまったのだ。初日からこれではこれからの高校生活は想像するまでもない。我が事ながら不安になりつつ高校への角を曲がれば、前を歩いていた青年の背中に衝突した。くわえていた食パンが空を飛び、運が良いのか悪いのかスカートの上に落ちた。

「痛たた……」

「君、大丈夫かい？」

前かがみになりつつ走っていたため前方不注意であつたらしい。

国世は追突してしまつた相手を見上げ 見知つた顔であることに目を見開く。

「高峰君？」

「え？」

こけてしまつた国世に手を差し出していたのは中学時代から見慣れた恋人の高峰昇その人だった。いや、違う。今日の前にいる彼の方が少し年上に見える。

「なんだ、昇の知り合いかい？ 俺は昇の従兄の久野坂彰。 ちよつと待ってね」

差し出していた手を引つ込めて久野坂は鞆の中を探り、取り出したのはウェットティッシュ。百均で売っているアレをペリリと開け一枚取り出して差し出す。

「手が汚れちゃつたみたいだからこれで拭いてね」

「あ、はい」

国世は久野坂に従い手を拭う。頭が悪くないはずだが抜けている彼女は、立ちあがるという選択肢を脳内から削除していた。天は二物を与えないというがその通りである。彼女はふんわりと優しい容貌をしているが、日常生活に支障をきたすほど彼女は抜けている。

「有難うございます、えつと、久野坂さん」

歯型のついた食パンを取り、仕方なく地面に手を突き立ちあがろうとした彼女に再び久野坂は手を差し出す。

「彰で良いよ。ところで急いでみたいだけど良いのかな。もし良かったら送っていくよ」

久野坂は自転車を横に停めていた。だというのに何故道の端で立っていたのかは謎であるが国世がそんなことを気にするはずがない。「良いんですか！？ ではお願いします！！ 今日が入学式なのに寝坊してしまつて」

ついでに国世は他人の行為を素直に受け取る人間だった。天然が入っているものの国世は確かに美少女であり、昔から人の好意に恵まれていたからだろう。持たざる者には全く羨ましい限りであるが。「ならホラ、後ろに乗つて」

久野坂はスタンドを蹴り上げサドルに腰を下ろした。半身をねじつて振り向き後ろの荷台　キャリアをポンポンと叩き笑う。国世はその笑顔が彼女の恋人高峰のものを思い出させることに小さく微笑みを浮かべた。コクリと頷き横から尻を乗せ、久野坂の腰に腕を回す。走つて三十分の位置にある学校だが、自転車ならば十分もかからない。口にくわえた食パンをモゴモゴと咀嚼しながら国世は人の漕ぐ自転車からの景色を眺めた。

国世は気付かない。普通、そういう行為をするのは恋人同士であり、彼女の恋人である高峰がそれを見たら絶叫するだろうことを。

てんごく そのいちっ（後書き）

タイトルは可愛らしい物だが、内容も可愛らしいかと言えば必ずしもそうではないのがこの世の世知辛いところである。世間とは概してそういうものなのだ。

友人と考えた設定を元に書いているが、果たして初めに友人Rとともに考えたエロコメになるかは書いている本人も知りようがない。この連載は暴走列車である。いつ何どき脱線して路面電車と化すのか分らぬものであり、そしていつピルに激突して停車するかも書き手の預かり知らぬことであることを了解願いたい。

食パンをくわえて走り、「ああーん、遅れちゃうよう」というのはラブコメの始まりにふさわしいものであるが、パンをくわえて走る本人が彼氏持ちでは恋など始まりようがない。それも当たった相手が恋人でなく恋人の従兄である。三角関係の開幕であろうか。従兄弟同士であるがゆえに問題が多発しそうな予感もする。

だがご心配召されるな。久野坂にはちゃんと他に相手が存在する。

次回予告！！

遅刻はしなかったけど、高峰君が怒ってる！？ それと彼女も怒ってる！ 彼女は一体何なのー！？

萌え系を目指してみたが無理だということが分った。次回からは

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5118o/>

友人の期待に応えて書くことになった

2010年10月31日00時31分発行